

【国際会議報告】

# 交通と運輸に関する国際会議

2000 INTERNATIONAL CONFERENCE  
ON TRAFFIC & TRANSPORTATION STUDIES

水谷香織<sup>1</sup>・鈴木崇児<sup>2</sup>

*Kaori MIZUTANI and Takaji SUZUKI*

<sup>1</sup>学生会員 岐阜大学工学研究科博士後期課程 (〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸 1-1)

<sup>2</sup>正会員 中京大学経済学部 (〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町 101-2)

## 1. はじめに

第2回交通と運輸に関する国際会議(2000 International Conference on Traffic & Transportation Studies)が、去る2000(平成12)年7月31日-8月2日に、中華人民共和国(中国)の北京市において開催された(写真-1)。本会議は、2年に1回開催される予定であり、第1回会議が1998年に同市で開催されて以来、中国が拠点となる国際会議として急速な発展を遂げている。実際に交通研究者、実務者を中心に世界各国から幅広い参加者が集まっていた。

本会議は、図-1に示すとおり、急速な発展を続ける北京市の中でも中心に位置する海淀区(北京動物園北)中苑賓館(Central Garden Hotel)で開催された。当会議は北京市内にある北方交通大学(College of Traffic and Transportation of Northern Jiaotong University)によって主催され、中国国家自然科学基金(The National Natural Science Foundation of China)、香港科技大学(Hong Kong University of Science and Technology)の後援を受けている。International Scientific Committeeの委員長には、YANG,Zhaoxia教授(China)、副委員長には、SINHA Kumares C.教授(U.S.A.)、BELL, Michael G. H. 教授(U.K.)、YASUNORI Iida教授(Japan)の3名が就任し、中国本土(9名)、香港(4名)、イギリス(3名)、日本(2名)、オーストラリア(2名)、他6ヶ国の研究者によって委員会が構成されている国際学会である。

## 2. 会議の概要

本会議の目的は、交通に携わる世界中の専門家が、重要な課題点や革新的なテクノロジーを探求し、最新のプロジェクトや交通システムの展望について議



写真-1 ICTTS2000の開会式

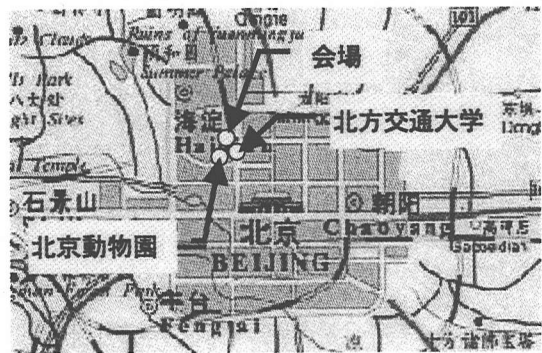


図-1 北京市の地図

論する場を提供することである。とくに、中国では、交通システムが急速に拡大しつつあり、伝統的な鉄道交通だけに留まらず、高速道路における交通管理や交通流制御に関する新しい知識や情報が必要とされている。このような中国の社会的な背景を反映してか、交通の学会としては広範囲な分野を対象とする会議となっていた。

表-1 会議の日程概略

月 日	行事
7月30日(日)	登録
7月31日(月)	登録, 開催式, 全体講演 ウェルカムランチ 研究発表(A, B, C1~2)
8月1日(火)	研究発表(A, B, C3~6)
8月2日(水)	研究発表(A, B, C7~8) 北方交通大学鉄道整備教育研究所等の見学会 閉会式, ディナー

本会議では、5件の全体講演と、144件の研究発表が行われた。日程概略を表-1に示す。全体講演では、国際的に有名な交通の専門家、鉄道、高速道路の管理者らが招待され講演を行った。Michael F. H. Bell教授とChris Cassir氏(University of Newcastle, UK)は、「Risk Averseness in User Equilibrium Traffic Assignment: An Application of Game Theory」に関する講演を行った(写真-2)。また、北京北方交通大学からは、Zhaoxia Yang教授をはじめとする6名の「Simulation System of Technological Process at Marshalling Station」に関する講演が行われた。日本からは、海外鉄道技術協力協会の岡田宏理事長が、「Socioeconomic Assessment on Infrastructure Project」について講演を行った。

研究発表は、研究分野ごとに3グループに分けられ、24セッションが3会場と並行して行われていた。各セッションの研究分野と発表件数は表-2に示すとおりである。発表時間は90分間で6件というスケジュールであった。ここでは、交通に関する幅広い分野の研究発表が行われ、ディスカッションも盛んに行われていた。日本からの研究発表は、筆者らを含めて21件であった。筆者らは、岐阜大学から3名、中京大学から1名が参加し、小谷・鈴木・秋山が「The Optimal Transport Safety Planning with Accident Estimation Process」について、水谷・秋山が「A Logit Model for Modal Choice with a Fuzzy Logic Utility Function」についての研究発表をそれぞれA2とA7のセッションで行った。

また、具体的な参加者としては、開催国である中国を中心に20ヶ国から181名が参加し、その内訳は、中国本土(89名)、日本(36名)、U.S.A.(12名)、イタリア(8名)、香港(9名)、オーストラリア(5名)、カナダ(4名)、イギリス(3名)、台湾(2名)、チリ(2名)、ドイツ(2名)、南アフリカ(2名)、その他、フランス、ギリシャ、スペイン、シンガポール、バングラデシュ、ニュージーランド、アラブ首長国連邦等となっていた。

なお、発表論文は事前審査がなされており、全体講演の内容とともに、American Society of Civil

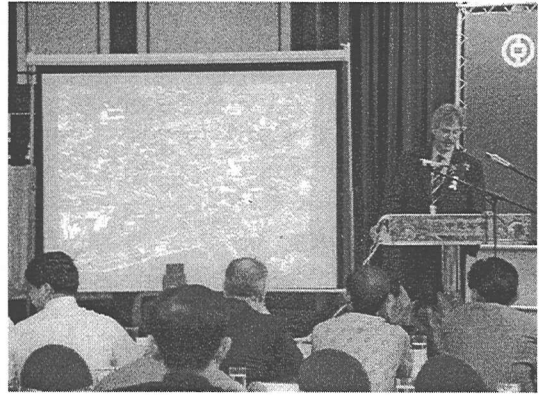


写真-2 全体講演の様子

表-2 各セッションのタイトルと発表件数

研究分野	件数
A: Transportation Policy and Management	48
B: Transportation Planning and Optimization	48
C: Application of New Technology	48

Engineers (ASCE) 編集の論文集「Traffic and Transportation Studies」(ISBN 0-7844-0503-4)にまとめられている。

### 3. おわりに

会議では、全体講演、研究発表以外にも、歓迎昼食会、北方交通大学における鉄道整備教育研究所や同大学の管理による鉄道交通過程シミュレーション研究所への見学会が企画されていた。また、西太后愛用の離宮として知られ中国の典型的庭園といわれる頤和園、西巢と羅並んでショッピングセンターの多い通りである王府井への市内観光も企画されていた。郊外の観光地へは、万里の長城、明代皇帝の陵墓群である明十三陵へのツアーが用意されていた。さらに、天安門広場、故宮、北海公園への訪問などがスケジュールに多彩に組み込まれていた。

最終日の閉会式を兼ねたディナーパーティーでは、北京ダックをはじめとする豪華な料理がところ狭しと並べられた。筆者らは、充実した研究発表に加えて中国料理の美味しさとボリュームに感動し帰路についた。非常に円滑な会議運営がなされていた。

今回の第3回 ICTTS は、2002年7月23-25日に桂林市(中国広西壮族自治区)にて開催される。桂林市は、「桂林の山水は天下を甲たり」といわれるほど美しく、世界的にも有名な観光地として知られている。興味を覚えた方は、下記のホームページを参照して頂きたい。

(<http://www.njtu.edu.cn/depart/xyjtys/ictts>)

(2001.4.18 受付)